

第4部 本書に対する若者の声

本書の原案に対し、各メンバーの友人関係を頼り、省内外の同年代から、多数の有意義な御意見をいただきました。ここでは、その一部を御紹介いたします。

価値観・生活スタイル

夫婦と子どもの一家庭のみを挙げて「こうあって欲しい」社会とするのは、多様化がますます進む現状において、国が一つの在り方を前提にしており、問題。多様な生活設計をする人々を、それぞれのニーズに合ったようにサポートする社会、人々の価値観の多様性を国の施策が積極的に受け入れ、ライフスタイルに中立な社会を目指すべき。(20代(女性)、大学院生)

個人主義化するため、生活の単位が夫婦や家族ではなく、個人単位が増加し、結婚する人が減少するのではないかと。また、教育やしつけが単調になってきている中で、未婚の大人が増え、責任を持っていない人が増加し、自分以外の者を支えることは難しくなるのではないかと。(30代(男性)、卸売)

学生結婚・出産には違和感。働きながら学ぶだけでも経済的には大きな負担であり、子育てまで学生2人で対応しきれぬのか。(20代(女性)、公務員)

専業主婦を選択するのもカップルの自由。その選択を否定的に捉えるのはおかしい。(20代(女性)、住宅)

「高校卒業後は親から自立、働きながら学ぶことが一般化」、「学生結婚・出産の増加」は、今の世の中の流れからみてなぜそうなるのかよく分からない。(30代(女性)、出版)

2025年に子育てする世代は現在子育てされている世代であり、今まさに親の姿を見て、親の愚痴を聞かされ、幼少期の多感な心に刷り込まれ、育児に対するネガティブな感情が醸成されかねない。2025年というわずかに早急に解決すべき課題である。(30代(男性)、通信)

社会保障全般

年金制度の問題等高齢化社会への対応について触れなければ未来予想図とはならないのではないかと。(30代(男性)、省内)

社会保障の個人単位化は、個人化の流れを助長するのではないかと。(20代(男性)、公務員)

夫の育児に対する意識は大いに変わると思うが、夫婦の役割は夫婦で決めるのが理想であり、専業主婦を希望する者も少なくないと思う。(30代(男性)、省内)

ペイドワーク(賃金労働)での男女間の差を無くすためには、アンペイドワーク(家事、育児等)における男女間の不均衡を無くすのが前提という意識転換が重要。育児と家事を女性のみが育負ったままでは、女性性は職場で男性と同様には働けない。(20代(女性)、大学院生)

夫婦だけの時間を大切にしたい人は子どもを作らないのではないかと。(20代(男性)、公務員)

子育てがかっこいいと思われるようにすることが重要ではないかと。(20代(男性)、省内)

在宅勤務は、仕事と家事、育児を分離しにくいという考えもある。また、在宅勤務が健全ではなく美談というのは、「育児は女性の責任」という意識が残ったまま、という気がする。(30代(女性)、主婦)

児童・家庭に対する社会保障給付の割合の増加となると、どこを削減するのか。高齢者への対応は大丈夫なのか。(30代(男性)、通信)

子育て支援

育児に対する経済的な不安の解消について触れられていると、より共感できるものになったのではないかと。(30代(男性)、通信)

育児シッターの普及は費用面で難しいのでは。料金が安いとなると賃金も安いということではないかと。(20代(男性)、公務員)

父親が保育園に預けに行くのは今でもよくあることではないかと。(30代(男性)、省内)

子どもが帰宅すると親が既に仕事から帰宅しているという状態は理想だが、学童保育や地域の子育て機能の充実も必要ではないかと。(20代(男性)、公務員)

公的な支援は子どもを持つことの阻害要因の除去にはなると思うが、子どもを持つとするとインセンティブについての問題の根本的な解決策にはならないのではないかと。(20代(女性)、公務員)

育児シッターは身内か近所の親しい人でないと実現が難しいのではないかと。(30代(男性)、省内)

金融機関の合併等により、大手町や赤坂、霞ヶ関等に空き店舗が多数あるが、その場所を国(都道府県)が借り、「育児センター」のようなものを作れないだろうか。(20代(男性)、商社)

育児シッターを有資格化して、安心して任せられる環境が欲しい。(20代(男性)、商社)

ベビーシッターは、大学生だけでなく高齢者の働く場としても有効ではないかと。(20代(女性)、省内)

「子どもは夫婦の持ち物で各夫婦の責任」から「子どもは社会の子ども」という意識転換が必要。子育てにかかるコストはもっと社会化化する必要がある。シングルマザー、シングルファザーでも育てやすい社会に。(20代(女性)、大学院生)

延長保育や夜間保育が進まないのは保育士も母親である場合が多いからであり、保育サービスの充実も、労働時間の弾力化も誰かの家庭を犠牲にしないと成り立たないのではないかと。(30代(男性)、省内)

子育て世帯への経済的援助、託児施設の充実、企業側に対する育児支援への優遇制度といったものを充実させないと子どもは増えないのではないかと。(30代(男性)、卸売)

男性にも育児に参画する義務を課す必要があると思う。意識が変わるのを自然に待つのではなかなか変わらない。制度によって意識を変えるという発想もあっていいのではないかと。このまま男女ともに仕事に進む社会では、犠牲になるのは子どもだと思う。(20代(男性)、公務員)

欧米のように育児シッターのような他者が家庭内に入ってくるのは、日本では想定しがたい。むしろ、ドクター等医療系スタッフが常時駐在し、受入れも24時間可能、ショートステイもできるといった医療と育児の両方に対応できる施設があれば、夫婦だけの時間も大切にできるし、夫婦とも仕事に没頭することもできるのではないかと。(30代(男性)、省内)

子どもの看護休暇がとりやすくなることはよいことだと思うが、子どもの病気は突然の場合が多いので、どうしても休めない場合のために、休暇よりも病気の子どもを安心して看てもらえるようにすることが大切ではないかと。(30代(男性)、省内)

「育児シッター」の職務内容はあまり大学生が希望する職種とは思えないのではないかと。また、個人主義的の考えの中で、放課後の子どもを面倒を多くの学生やお年寄りがある面を多くする学生やボランティアのみならず、第2部で描かれた社会は成り立たないような気がする。ボランティア活動は意識の高い人しか現状で活動していないし、家族のレジャーも広まっている。一としてのボランティア活動は強い契機がないと広まらないのではないかと。(20代(女性)、主婦)

ボランティア

海外留学や海外ボランティアの義務化などをやってみてはどうか。(30代(男性)、銀行)

小学生の遊びは、同級生同士でやるのではないかと。小学生が老人の相手をしに行く方が自然。過保護すぎ。(30代(男性)、省内)

個人主義化するため、自分のこと以外のボランティア活動などに興味を持つ人は減少するのではないかと。(30代(男性)、卸売)

我々が高齢者になったときに子どもに教えるような遊びがあるのだろうか。(20代(男性)、公務員)

雇用管理

派遣労働者と代替できる者は正社員として雇わないのではないかと。また、育児期の短時間勤務などを導入する企業に対して助成しない限り、そう簡単には広まらないのではないかと。そもそも営業職は交替で行うことは難しいのではないかと。(20代(女性)、主婦)

企業における少子化対策への貢献としては「男性の育児休業義務化」が必要となると思う。(20代(男性)、商社)

2人で1.5人分となると、育児期間中、0.75人分働くことに理解を促す余裕のある会社は出てくるのだろうか。企業間の競争が激しくなっている現状からすると制度ができて奨励する余裕はないのではないかと。(20代(男性)、保険)

育児期間中の短時間勤務やフレックスタイム制が広く認められるようになれば少子化に効果があると思うが、実際にこのような制度を利用する場合に、人事上不利な取扱いを受けないといった不安を払拭するような仕組み・職場環境づくりも必要ではないかと。(30代(男性)、製造)

フルタイムとパートが「正規社員」と「非正規社員」から、「正規社員」の中でのフルタイム、パートタイムになるべき。(20代(女性)、大学院生)

労働時間と給与の問題は企業にとって「そんな都合のいい話はない」ということになるのではないかと。労働時間が半分なら、給料はそれ以下になってしまうのではないかと。(30代(男性)、銀行)

働き方

第2部で描かれているような雇用形態を認めると、少なくとも企業としてはコスト増になるため敬遠するのではないかと。また、女性個人としても、仕事を全力でやりたいというニーズも相当強いのではないかと。高島一家のような生活を理想とする人が少ないからこそ、少子化なのではないかと。(20代(女性)、証券)

趣味、地域活動等に充てる時間を増加させるためには、長時間労働をなくすことが必要である。(20代(女性)、省内)

夫婦で1.5人分の仕事はどうやって実現させるのか。夫婦が別の企業に勤めていても可能なのか。(30代(男性)、電力)

仕事の分担は効率的な面がある一方、非効率な面もあり、一部の職種に限られるのではないかと。情報化などにより雇用人数も減少することが予想され、このような社会の変化に対応できなかった人は職を失い、生活できなくなってしまう可能性もあるのではないかと。(30代(男性)、会社員)

在宅勤務もフレックスタイムも職種が限られるのではないかと。通勤地獄が緩和されるか疑問。(20代(女性)、主婦)

通信系の発達により生産性が格段に向上する可能性はあり、そういう意味では高島一家のような家庭はあり得るだろう。(20代(男性)、銀行)

専業主婦を希望する女性もまだまだいるのではないかと。(20代(男性)、銀行)

2人で1.5人分働くという事はいい。労働環境としてはSOHOの拡充や長期休暇制度の浸透などにより整ってくるだろうし、社会的にも女性がかっこよく社会進出するべきという風潮が強まってきているので実現可能ではないかと。(20代(男性)、保険)

現実はいづれ残業が入るか分からない。家事・育児の負担もきれいに半々とはならず、夫婦のうち、短時間勤務をしている者が家事・育児のメインの部分を引き受けざるを得ないのではないかと。(30代(女性)、出版)

ネット上のセキュリティーが発達することが在宅勤務普及の前提となるのではないかと。(30代(男性)、製造)

この話の夫婦のように、フルタイムと短時間勤務を組み合わせた1.5人分の働き方・収入で子どもを3人育てることができるのか疑問。(30代(女性)、出版)

高齢者

高齢者がどのように生活しているのかがよく分からない。親の介護を抱えていれば、このような優雅な生活は送れないのではないかと。(20代(女性)、公務員)

高島家が介護を迫られているとすればここまで綺麗な未来にはならないのではないかと。(20代(男性)、銀行)

介護問題の記述がなかったが、例えば、遠距離介護を行っている社員がいる場合には、優先的に介護施設への入所を認めるなど、企業の制度として一定の要件に合致すれば支援策を講じる等の社会環境整備についてもお願いしたい。(20代(男性)、商社)

教育

校庭の芝生化は是非実現して欲しい。(30代(男性)、製造)

校庭の芝生化は維持するのが大変だし、ガラスの破片があったりして危険性もあるのではないかと。(30代(男性)、公務員)

国際化

現在でも、登録レベルだけで100人に一人の割合、登録外を含めるとそれ以上の割合にある外国人の方々の存在について、例えば、友達や近所に外国人がいるような設定にし、さらに、その人達とも楽しく生活しているという多文化共生社会の実現に向けてのビジョンを描くべき。(30代(男性)、研究者(日本語教育))

少子化でなぜ学費が低下するのか。(30代(女性)、主婦)(20代(男性)、公務員)

少子化に伴い、今後さらに大学の競争が激しくなるとすれば、大学の質の向上も必要であることから、費用はそれほど低下しないのではないかと。(30代(男性)、省内)

ゆとり教育の反動で学習塾に通っている現状をみると、今以上に学習塾に熱を入れるということにはならないかと。(30代(男性)、通信)

女性、高齢者、学生の労働力に加え、外国人の労働力のウェイトが高まるのではないかと。(30代(男性)、証券)

その他

親や親戚、近所の人達との交流についても考えるべき。(30代(男性)、研究者(日本語教育))

現在の膨大な財政赤字、企業のリストラ、収入減などからは、ここに描かれている豊かな生活の元手、個々の収入にせよ、国の収入にせよ、なかなか「実現可能」とは思えない。(40代(男性)、公務員)

住宅・自然環境

高速道路の地下化は構想としてはいいが、公共事業費を抑制しようという今の流れの中では実現しないのではないかと。(20代(男性)、保険)

児童・家庭への社会保障給付の増加、看護休暇、短時間勤務などに当然付随する社会的なコストの増加についても触れるべきではないかと。(20代(女性)、省内)

少子化は若者の晩婚化によるものも大きいのではないかと。若者の結婚環境の変化(結婚したくなるような社会)も検討してみてもどうか。(20代(男性)、省内)

都市部の地価が抑制されると、逆に都市に人口が流入するため、一人当たりの居住面積はそれほど広くならないのではないかと。(20代(女性)、主婦)

同世代が共感できる姿が描かれており、その実現に向けての行政の多様なバックアップに期待する。(30代(男性)、通信)

ここで描かれた2025年の自然環境の姿は大変いいことだと思う。(20代(男性)、公務員)

その他

・この例が悪いとは言わないが、これが理想の姿であるとして示すことには違和感を感じる。もっと多様な姿を併記した方がいいのではないか。(30代(男性)、省内)

・我々の世代が中高年世代になる頃だろうから、中高年もそれなりに未来は明るいというメッセージは出せないか。(30代(男性)、省内)

・テレビゲームのITの影響が、子どもが育つという局面に想像以上の悪影響を及ぼしていくと思う。こうした中で、ここで描かれているように親子のふれあいを保つのは至難の業ではないか。(20代(男性)、公務員)

・登場する子どもに手がかけられない。現実的なおいがもう少しの方がいいのではないか。(20代(女性)、通信)

・円満な家庭ばかりではなく、離婚率も相当上がっているのではないか。(20代(女性)、公務員)

・妊娠しながら働いている女性の通勤の負担の軽減を図るためにも、マタニティリング的なものは必要。(20代(男性)、商社)(20代(女性)、省内)

・この頃には、夫婦別姓が主流ではないか。(40代(男性)、公務員)

・バラ色すぎるのではないか。実現可能性があるとも思えない。(30代(男性)、銀行)

・高島家はエリートという感じがする。(20代(男性)、保険)

・「家族」という概念自体が、多様化、流動化すると思う。子どものいない家庭、同性愛者のカップル、片親の家庭等、様々な形がそれぞれもっとな受け入れられやすくなり、また、人生の間に、結婚、離婚、同棲が一回づつとは限らない社会になるのでは。(20代(女性)、大学院生)

・家計の収入の構造は、共働きが前提か(賃金水準、年金・税制度等は?)。(40代(男性)、公務員)

・仕事以外に価値を置く人は増えると思う。余暇市場はもっと拡大するのではないか。(20代(女性)、大学院生)

みなさんも議論してみてください

「2025年の日本の姿」は、未来の社会の一つのあり方として提案しましたが、違う姿があってもいいと思います。みなさんも、学校、職場、家庭などで議論して、オリジナルの「2025年の日本の姿」を作成してみてください！自分と社会との関わりを考えるきっかけになるとと思いますよ。

仕事

- どんな職業につきたい?
- いつから、いつまで、どうふうに働く?

子育て

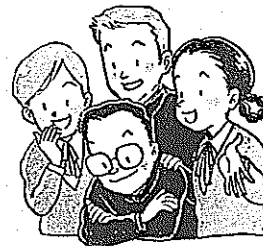
- 誰(父母、地域社会など)がどのように子育てに関わるか?
- どんな子に育てたい?

自立

- いつから自立すべき?
- 人生80年時代をどう生きる?

家族

- 家族の大切さは?
- 理想の親の姿は?
- 理想の兄弟姉妹の数は?
- 理想の家族構成は?



恋愛

- 恋愛から得るものは?
- 親は子どもの恋愛とどう向き合うべき?

あなたが住む地域

- どういう町に住みたい?
- 地域内の助け合いは必要?

教育

- どのような教育が必要?
- いつまで教育を受ける?

日本の社会

- どういう国になってほしい?
- 好きなところ、嫌いなところは?

結婚

- なぜ結婚するの?
- 結婚のイメージは?
- 結婚相手に望むことは?

妊娠・出産

- 何人子どもがほしい?
- 何歳くらいのとき?
- 子どもを持つことの意味は?

外国との関わり

- 世界の中の日本の役割は?
- 日本に住む外国人との交流は?



「2025年の社会の姿ワーキングチーム」メンバー
(50音順)

河村 のり子
源河 真規子
佐々木 菜々子
佐藤 由佳
下向 智子
白川 泰之
武田 康祐
日野 力
姫野 泰啓
古瀬 陽子
蒔苗 浩司
養原 哲弘
幹事：森 新一郎

(年齢構成) 20歳代後半 7人、30歳代前半 6人
(既・未婚) 未婚者 7人、既婚者 6人(うち子持ち4人)

「2025年の日本の姿」平成14年6月14日
(「第3回少子化社会を考える懇談会」提出)